

平成 27 年度 総会および研修会を開催

はじめに

道北技術士委員会では、定例の総会および研修会を開催しました。当日は北海道本部事務局長 森隆広氏をお迎えし、総勢 38 名の参加者となりました。以下にその概要を紹介します。

日時：2015 (平成 27) 年 4 月 25 日 (土)

14:00 ~ 19:30

場所：ホテル クレッセント旭川

1. 総会

大原代表幹事の挨拶の後、同代表幹事による議長の進行により以下の項目についての報告が行われました。

第 1 号報告：平成 26 年度事業報告および決算報告

第 2 号報告：平成 27 年度事業計画案および予算案

第 3 号報告：幹事の改選

平成 27 年度事業計画では、北海道における地域産業活性化への寄与、北海道の役割としての安定した水・食糧などの物資供給体制の維持、人道支援を通じた震災復興支援への寄与が求められる中、技術士同士の連携を進めることで公共の安全、環境保全、その他の公益確保を踏まえた活動の推進が確認されました。

幹事の改選では、4 年間代表幹事を務めた大原治 氏ら 3 名が退任し、新代表幹事には、高桑史郎氏、他 3 名の新幹事を選出しました。



高桑史郎 新代表幹事

2. 研修会

演題 1：技術士を巡る最近の動向

講師：日本技術士会北海道本部

事務局長 森 隆広 氏

概要：以下の 5 点について解説を頂きました。

- (1) 平成 26 年度 技術士一次試験結果
- (2) 平成 26 年度 技術士二次試験結果
- (3) 日本技術士会北海道本部の会員数
- (4) 総括本部 (理事会等) からの話題
- (5) 日本技術士会北海道本部の主な動向



講師 森 隆広 事務局長

演題 2：土砂災害の基礎知識

講師：北海道開発局旭川開発建設部

次長 (河川道路担当) 小林幹男 氏

概要：最近の異常気象で生じている水害および土砂災害事例を基に、以下の 4 点について解説を頂きました。

1. 我が国の国土条件と水害・土砂災害、
2. 土砂災害の種類と特性、
3. 土砂災害対策、
4. 調査に当たっての基礎知識

我が国は、細長い国土・四島分断・山地分断・中央構造線(糸魚川-静岡)・狭い平野・軟弱地盤上への大都市形成・多雨・地震地帯・国土の6割が積雪寒冷地域であるなど非常に多くの悪条件が揃っている。昨年のみでも、時間雨量50mmを超える豪雨が発端となった大規模土砂被害として7月の長野県南木曾町と山形県南陽市、8月の京都府福知山市と広島市があり、台風12 & 11号による総雨量1,000mmを超える豪雨をもたらした大規模土砂災害として山口県岩国市と徳島県阿南市が記憶に新しい。

北海道に注目しても1平方キロメートル以上の地すべり分布が数多く存在し、落石・トップル・回転型地すべり・並進型地すべり・土石流・火山泥流・岩屑なだれの発生が考えられる。空中写真による地すべり地形の判読、崩壊し易い斜面の特徴把握は可能である。地質(火成岩・堆積岩・変成岩など)と崩壊の特徴についても明らかになっており、いくつかのモデルが提案されている。

土砂災害対策には「施設整備」、「警戒避難」、「適切な開発」の3本の柱があり、ソフト対策に該当する警戒避難と適切な開発の整備(法整備含む)が重要である。また昨年9月には御嶽山噴火の災害が生じており、土砂災害の原因は水害のみではない。土砂災害における被害調査の技術開発、緊急対策の計画策定の推進が求められる。



講師 小林幹男 技術士

演題3：中高年(50歳から)の泌尿器科

講師：医療法人 神楽岡泌尿器科

院長(医師) 渋谷秋彦 氏

概要：泌尿器科の医師として現場を知り尽くしている渋谷氏から、中高年の泌尿器科疾患・泌尿器科の関連領域・尿路・性器の構造・前立腺肥大症(BPH)など、男性の健康に関わる話題提供と種々の解説を頂きました。

最近の晩婚化の影響から課題となっている不妊治療について、不妊原因の4割は男性側にある。本題に入り蓄尿と排尿に注目すると、それらは自律神経(交感神経)がコントロールしているが、中高年になると下部尿路症(尿をためられない蓄尿症状、尿が出にくい排尿症状、および残尿感などの排尿後症状)が生じる。しかし、その病状に関しては患者の困り方が一定とはいえず、質の把握は難しい。夕食トイレに行くのが好ましく、我慢するのはよくないことである。一方、水分を取ったからといって血液がさらさらになるものではない。

前立腺肥大症に注目するとアメリカ(オムステッド群)と日本(北海道島牧村)の疫学調査結果から、症状が出ない人も年齢と共に前立腺の体積は増加することが明らかになっている。使うことで、使うことの積み重ねにより臓器が大きくなっていくと考えている。

EDのリスクファクターには、加齢・喫煙・高血圧・糖尿病・脂質異常症・肥満&運動不足・うつ病・不妊症・神経疾患・薬剤・睡眠時無呼吸症候群・LUTS/BPH・CKDが挙げられるが、気分的・心理的要因が4割程度を占めるといえる。VCDは有効な補助具である。



講師 渋谷秋彦 医師

3. 意見交換会

研修会講師や新旧の代表幹事を含む34名が参加し、活発な情報交換が行われました。本誌の紙面をお借りし、本総会および研修会にご協力いただいた講師の方々、および参加者の方々へのお礼を申し上げます、そして4年間に渡って道北技術士委員会を纏めてこられた大原前代表幹事に感謝申し上げます。

最後に、会員皆さま方の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます、ご報告といたします。